

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370200984
法人名	社会福祉法人 ま心苑会
事業所名	グループホーム ま心
訪問調査日	平成 20 年 3 月 31 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4370200984		
法人名	社会福祉法人 ま心苑会		
事業所名	グループホーム ま心		
所在地	熊本県八代市敷川内町 2243-2 (電話) 0965-31-7600		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年3月31日	評価確定日	平成20年4月28日

## 【情報提供票より】(20年2月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 27 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	1 階建て

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	14,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	370 円
	夕食	370 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(2月26日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	102 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	八代市立病院 開病院 田淵整形外科医院 増田歯科医院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体施設に隣接するホームは家庭的な雰囲気の中に、明るく笑顔で接する職員のもと、入居者の得意分野を引き出し、生き甲斐や出番を作り仲良く楽しく過ごしている。周囲には母体施設のほかに民家も少なく、希薄になりがちな地域住民との関係を老人会から多くの参加を得る等運営推進会議が地域交流の場として補っている。今後地域との関係強化、地域生活の拡充が期待される。外部評価を前向きに捉え、優先順位を付与し改善策を講じており、特に今年度は全職員が内外の研修に参加しレベルアップに努めている。最高年齢102歳という高齢者も職員の心温かいケアに支えられ穏やかな生活が営まれており、“ま心”というホーム名が十分に表出されたホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果より課題に優先順位を付与し改善へ向け取組んでいる。特に4項目(事故報告書・ヒヤリハット、金銭管理の支援、トイレ使用時のプライバシーの確保、玄関の施錠とスピーチロック)について話し合い、改善が図られている項目と玄関施錠は安全性から継続課題として取組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価・外部評価を意識向上の一環であると前向きに捉え、訪問調査で緊張感を持つ事で活性化に繋げたいと考えている。今回の自己評価票を全職員に配布し、毎月1日に行うミーティングで話し合い、個々の考え方・見方を検討し作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催される運営推進会議は行政をはじめとして、回を重ねるごとに老人会のメンバーが交代で参加されるようになり、ホームの現状説明や意見交換、その後はおやつ時間を入居者と共に過ごしたり、カラオケ交流会や折り紙、フロアでのミニミニ運動会等が開催され、地域との交流会としての役目も果たしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置しているが、家族や入居者は直接意見を出されており、相談票に記載しその都度緊急ミーティングにより検討し、改善策を講じている。家族会もあり、総会では駐車場の整備等が意見として出されている。ホーム内外の相談窓口や担当者も明確に掲示している。家族への報告は訪問時や毎月担当職員が状況報告しているが、ホーム独自の広報誌も検討していただきたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	母体施設に隣接したホームであり、周辺には民家が少なく地域住民との関係は希薄になりがちでありが、隣接施設のボランティア活動を通じた交流や施設行事への参加・中学校の定期演奏会へ招待され参加したりと努力している。又、運営推進会議に老人会のメンバーが多数参加されており、会議が地域の人々との交流になっている。地域の一人としての活動は今のところ行っていない。地域の一人として積極的に地域と関わりを持ち、交流促進が期待される。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営方針に地域との協力と連携により地域との交流を図ることを掲げ、“自由 安心 快適”をホームの理念としている。	<input type="radio"/>	地域型密着サービスとなり、地域との関係強化に取り組まれている。その姿勢を具体的に理念に盛り込む等検討いただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者手書きの理念を玄関や共有スペースに掲げ意識付けとし、日々の申し送り時に職員と入居者が一緒に唱和している。職員の笑顔が親近感として表出されており、理念の実践に真摯に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体施設に隣接したホームであり、周辺には民家が少なく地域住民との関係は希薄になりがちであり、隣接施設のボランティア活動を通じた交流や施設行事への参加・中学校の定期演奏会へ招待され参加したりと努力している。又、運営推進会議に老人会のメンバーが多数参加されており、会議が地域の人々との交流になっている。地域の一員としての活動は今のところ行っていない。	<input type="radio"/>	運営推進会議の中で、地域の行事をリサーチし参加する意向であるが、運営推進会議が地域との接点として重要な役目を果たしており、更に交流を深め、地域の一員としての活動も期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を意識向上の一環であると前向きに捉え、訪問調査で緊張感を持つ事で活性化に繋がたいと考えている。今回の自己評価票を全職員に配布し個々の考えかた・見方を検討し作成している。前回の評価結果より課題に優先順位を付与し改善へ向け取り組んでいる。特に4項目（事故報告書・ヒヤリハット、金銭管理の支援、トイレ使用時のプライバシーの確保、玄関の施錠とスピーチロック）について話し合い改善が図られている項目と玄関施錠は安全性から継続課題として取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催される運営推進会議は行政をはじめとして、回を重ねるごとに老人会長から「地区の人々を連れてきて良いのか？」との意見から老人会のメンバーが交代で参加されるようになり、ホームの現状説明や意見交換、その後はおやつ時間を入居者と共に過ごしたり、カラオケ交流会や折り紙やお手玉等地域との交流会としての役目も果たしている。全家族にも参加案内がされており、行政、家族、入居者、地域との接点でもある。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加やグループホーム連絡協議会へも行政が参加しており、情報交換等を行っている。市担当者と電話連絡や相談、情報を得るように心がけ、質の向上に繋げるよう取り組んでいる。	○	更にグループホームで出来る事など行政になげかけ、行政と一体となって認知症ケアの推進につなげられる事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料金と請求書の送付時に入居者個々の状態を記載し送付したり、家族の面会時や運営推進会議に暮らしぶり等を報告し、預り金制度を採っており四半期毎に家族に報告し押印での確認により確実性を図っている。職員の異動時には運営推進会議で新職員を紹介している。	○	法人全体の広報誌委員会にホーム職員も参加し、継続した発行により地域への啓発に繋げる意向であるが、ホーム独自でも広報誌を作成し家族に送付することも検討され、定期的な報告の一つとされることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが、家族や入居者は直接意見を出されており、相談票に記載しその都度緊急ミーティングにより検討し、改善策を講じている。家族会もあり、総会では駐車場の整備等が意見として出されている。ホーム内外の相談窓口や担当者も明確にし掲示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとっては継続した職員の必要性を認識されているが、法人内の異動が行われているが本年度の異動は無い。職員は退勤時にも入居者に影響を及ぼさないよう静かに帰宅するよう心がけている。管理者は希望休や有休の推奨に取り組み、3ヶ月編成の勤務表を作成し離職防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修に全職員が参加しレベルアップに努めている。毎月1日に行なうミーティング後に外部研修報告兼勉強会を開いたり、法人全体で月2回勉強会を開催している。また職員個々も資格取得に向け自己研鑽しており、管理者は専門書をホームで購入し働きながらレベルアップすることを推奨している。報告書によると様々な研修へ参加し、レベルアップに取り組んできたことが窺われた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の部会に参加し交流を深め、意見交換会等により質の向上を図っている。新人職員の研修や事例検討会又相互実習も取り入れ、計画した取り組みに全職員が参加し、ネットワーク作りに意欲的である。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設デイサービス利用経験から職員と顔馴染みであったり、家族と一緒に見学し、職員・入居者と過ごす時間を作っている。入居後は職員と一緒に寄り添ったり、デイサービスで楽しむながら徐々に馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴や得意分野等の把握により生き甲斐や出番を見出している。書道の得意な入居者の書かれた理念が玄関等に掲示され、日々の料理作りや野菜作りと得意分野を發揮してもらい、入居者は夜勤の職員が一人である事を気遣ったり、管理者のもとに相談されたりと共に支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報の他、職員の観察や気付きによる希望や意向を日誌に記載し、申し送りで情報の共有化を図っている。意思表示が明確でない場合は表情やしぐさから察知したり、耳元での声かけ等により本人本位に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規入居の場合はモニタリングで1ヶ月の計画を立て、援助目標を1ヶ月とし、担当職員を中心に本人の意向や訴え等様子を観察し正式なプランを作成している。本人・家族の意向やADL・IADLの状況把握がされ、入居者本位のプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは6ヶ月毎としているが、3ヶ月毎のモニタリングにおいて、プラン継続の可否を判定している。ADL等状況の再チェックや担当者会議に管理者・ケアマネジャーやスタッフと本人も参加、時には主治医も参加し医療面からのケアや現状に即した介護計画となるよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診は家族対応としているが、家族の状況に応じ職員が付き添ったり、理美容院の支援等柔軟に対応している。併設施設への行事参加やリフト車借用により全員参加の外出等行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの入居者はもともとのかかりつけ医へ家族対応の受診や本人・家族の意向のもと協力医療機関への変更により、適切な医療が受けられるよう支援している。担当者会議へ主治医の出席により医療面からプランの見直しをしたり、塩分調整などが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期について、入居時に方針のもと説明をしている。現時点では困難であるが、出来るところまでは支援していきたいと考えている。家族の希望により終末期ケアが一例があり、急変時の規約はあるが終末期ケアの指針は作成されていない。又、24時間医療連携は今のところ採っていない。	○	終末期ケアについて、繰り返し家族や主治医と話し合い、職員体制も考慮しながらホームでの生活が継続されるよう支援いただきたい。又、ホームで出来る支援を明確にし、ターミナルケアの指針を作成されることが求められる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々を尊重し、職員は自然体でケアに取り組み、自然な会話が入居者との信頼関係を築いている。常にスピーチロックにならないようにと気をつけ、“豊かな感性と接遇”等の研修に参加したり、ミーティングにより意識向上を図っている。記録物は事務所の鍵付キャビにて保管、職員は個人情報保護誓約書を提出し、情報漏洩には十分に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、起床時間や就寝時間等その人らしい生活を支援している。外出したいとの希望にドライブへ出かけたり、昼食後は居室で自分の時間をゆっくりと過ごしたり、入居者同士で会話したりと自由に過ごされていた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や料理本を参考に献立を立て、毎日ボードにメニューを記入する事で入居者とのコミュニケーションや日付確認の一環として。自家栽培の野菜が食材となり、週3回地元の名水汲み等食にこだわりを持って支援している。地産の竹箸を使用し、職員も同じメニューをケアの必要な入居者の横で和やかに食事をしている。入居者も野菜の収穫や調理へ参加したり、後片付けや洗物等一緒に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天然温泉のお風呂は体調を見ながら希望に応じた入浴を支援している。温泉効能により皮膚炎が完治したケースもある。足浴、半身浴等記録し、拒否の場合も最低3日に1回は入浴支援している。ドライブ先で足湯を利用したり、長湯、あつ湯好きの入居者へはプランを変更し個別に対応するなど入浴を楽しめるよう支援している。	○	夜間の入浴の希望もあり、夏場は夜間入浴を検討する意向である。季節に応じた職員のローテーション等検討し、希望に応じた入浴時間の実現に期待したい。又、浴槽の広さ、深さには十分な配慮を今後ともお願いしたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の生活歴に応じて、趣味や得意分野を發揮出来るよう支援している。農作業や書道、ハーモニカの演奏、詩吟、また料理への参加や掃除等楽しみごとや役割のある生活で自信回復を図っている。割烹着を付け一家の主婦としての活躍ぶりも垣間見た。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の体調や天候・季節により出来るだけ散歩や買物等外出の機会を設けている。併設施設のリフト車借用による全員での遠出等も楽しみごとの一つとなっている。調査訪問時も花見を兼ねたドライブに数名が参加されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠への弊害は十分認識しているが、玄関前の急な坂道や外出傾向により危険性のため、玄関にセンサーを付け施錠している。入居者の外出傾向を把握し、職員は寄り添ったり、一緒に散歩に出たりと行動を共にしている。	○	以前より施錠については改善課題として挙げられており、よく理解されている。ホームの構造上玄関が死角となり、玄関前の整備面からも危険である。センサーも付けられており、徐々にでも施錠時間を少なくする工夫や自分達で整備できる事等を話し合っって施錠のない生活へと取組んでいただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回併設施設との合同の防災訓練を実施しているが、ホーム単独での訓練は行っていない。火災報知器・煙探知器・スプリンクラーが設置している。	○	母体で行われる訓練は地域への周知が図られている。今後、ホーム独自の訓練を企画し、運営推進会議にて消防団や近隣住民の協力を依頼し実現に向け取組まれることを期待したい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録、塩分調整をプランに加え薄味にする等健康管理を行っている。水分は毎食の汁物、おやつや入浴後牛乳やヤクルト等の声かけ、また、個々の訴えにその都度対応している。食事形態もお粥や必要に応じてキザミ食等個別対応している。職員は“実践栄養バランス生活”“楽しく食べて介護予防”等外部研修に参加し、全員で意見交換を行い、食を通してのケアに反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、明るく広々としたワンフロアにダイニングテーブルと畳のコーナーに炬燵を設け、各々が好きな場所で寛ぎながら食事や会話を楽しめるよう工夫している。玄関・洗面台・リビング等家族や近隣からいただいた生花が活けられ季節感を醸し出している。浴室は天然温泉の為、温泉成分付着等日々の清掃には特に気を付けている事が窺われる。	○	広く明るい空間であり、廊下を行き来する事で身体機能維持低下防止にも繋がっているが、常に見守りが必要な動線であり、今後も職員の気付きや所在確認の徹底が期待される。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼット・ベッド・3段の衣装ケースが備え付けられているが、家庭から箆箆や冷蔵庫・テレビのほか様々な生活用品が持ち込まれている。以前の生活様式の継続として畳を敷いた部屋や車椅子使用の入居者には安全に配慮したレイアウト等個別性があり、本人が居心地良く過ごすよう工夫している。		

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームま心
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市敷川内町2243-2
記入者名 (管理者)	岩根 美佐子
記入日	平成 20 年 2 月 26 日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	新規採用や人事異動の職員には、しっかりと説明は行っている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	家族や地域の方々とも理念の共有を深めて行けるよう、広報係りも決め、発行し地域、家族への理解してもらうように努力が必要。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	年間行事の把握に努め、地域との参加を出来るように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	暮らしに役立てるよう努力したいが、具体化していない。	○	今後の課題でもある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善できるところは、実践している。職員会議でも、意見交換し生活の中で工夫をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でも家族や委員の方々よりアドバイスを頂いており、今後のテーマとして、実行している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議以外でも、疑問がある時は、電話連絡し担当者と意見交換等が出来る。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、勉強会を通し学びを深めたいが、困難事例もあり全職員に理解が出来たのか分からない。	○	事情により、今後も課題である為、検討して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やヒヤリハット報告書に基づいて改善に向け検討し、アイデアを出している。	○	利用者への言葉使いや職員の教育の中で再度検討をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	秘密保持、苦情処理等は、入居契約時に説明、同意を行っている。ケアプラン、請求明細の疑問がある場合などは、丁寧に説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の中にも、不安を感じ、数回訴え等があるが、その都度対応している。家族からの訴えがある時には、相談票に記録し、検討している。	○	なるべく、意見を反映させて行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の暮らしぶりは、運営推進会議、面会時に行っている。職員の人事異動や、新規採用者は自己報告し紹介をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は、玄関に設置してあるが、記入はない。家族からの苦情があったら、その都度、相談票に記入して意見を検討したい。	○	利用者、家族が安心出来るよう配慮して行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者、管理者は、業務上の意見がある場合、その都度相談し検討している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や職員の急病に対し、早期による人事応援体制が出来ているが、余裕のある職員配置がない。	○	勤務時間や職員確保の検討が必要であり、運営者にも希望を報告し、今後、検討をする。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	希望退職、人事異動は、利用者に気遣いされないよう配慮している。	○	職員が退勤する時も、静かに帰宅するようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH八代部会、ホーム内外の研修にも、積極的に参加が出来る。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代部会の研修にも、積極的に参加が出来る。他の事業所とも意見交換もあり、交流も少しずつ増えてきた。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務上、公私の相談は個別に受けている。職員同士も相談、助言など行われているが、定期的な親睦会を開いている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の健康面は、自己管理は徹底している。資格取得に意欲を持ち努力している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談来所は、家族が多く、その都度対応している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の内容について、管理者、職員は、傾聴をししっかり受け止め、家族の思いなど、安心される対応をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	他の事業所や、他のサービスも含め、相談支援も行っている。	○	新規職員も管理者の不在時の対応の仕方など、徹底して いく必要がある。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	ホームの事前見学もして頂き、その後、検討してもらうよう進 めているが、ホームの空きがある時は、入居希望者がいな く、困惑した事もあった。	○	グループホームの申し込みも、タイミングがあるので、今後 の課題になっている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共に し、本人から学んだり、支えあう関係を築いて いる	職員と一緒に行動が多いが、人生経験が長い利用者のアド バイスで、学ぶ事が多い。日々の生活の中、利用者の思い に揺らいたり、笑い、涙ありの感情がある。	○	業務優先的な時もあり、もっと、些細な会話も傾聴する 心で取り組んで行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支え ていく関係を築いている	面会時、職員、家族も出来るだけ接して会話を多く、信頼関 係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	推進会議でも、参加される家族は決まってきた。面会が 多い、少ない家族にも協力を得たい。	○	家族との時間を設けるに至って、検討が必要である。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	懐かしい人、知人などの面会は、時々あるがご本人も理解 が無いときもある。職員も、理念でもあり、気持ちよく、笑顔で 接し対応が出来ている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	利用者同士、性格上トラブルに成りやすい為、孤立させない よう、職員も配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅へ復帰されたり、退去されたご家族とも、笑顔で挨拶されたり、命日の日に自宅に訪問しお花を上げに出向いたりする職員もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に対して、希望、意向も取りながら、本人の視点で出来る事を取り入れている。	○	アセスメントにも、見直しが必要である。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思いや、希望が生活の上で出来ているか、様子を見ながら、処遇会議に、意見交換を行っている。	○	ケアマネの基礎研修にて、新たに本人にとってのプランに繋がるアセスメントの必要性を学び、今後も、検討して行きたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタル測定や心身の現状を把握した上でケアに努めている。出来るだけ見守りし、どうしても出ない部分は一部介助している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議、処遇会議にて、問題点など見直し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化がある時には、その都度介護計画を見直すよう努力している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録も、生活面での記録が多く、状態変化などは、朱書きにて記録している。	○	記録の方法もプランへ反映が出来るような様式に今後、検討したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族によっては、定期受診についても困難を要する時には、職員が付き添う事もある。	○	再度、家族とも相談し送迎支援についても検討したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には、2ヶ月に1回、運営委員会へ参加頂いており、消防訓練も併設である、特養と合同で、1年に2回行っている。	○	ボランティアの受け入れを、もっと深めて行きたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状態に合わせ、必要性があれば、地域包括支援センターのケアマネジャーと相談している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在宅への復帰があり、介護保険担当者、地域包括支援センターの方の協力もあり、在宅支援も意見が聞けるよう相談して行きたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけの主治医と連携し状態に合わせ報告、指示をもらっている。緊急時には、救急車で搬送への対応も備えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の意見を聞き、専門医のご紹介頂き、受診治療、助言をもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	准看護師を医療担当にし、変化が合ったら報告している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、家族と一緒にいき、状態把握に努める。医師と家族とも同席をしている。医療機関と連絡を取りながら、早期退院が可能か等の状況把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のケアについては、主治医と連携し、家族にもドクター、管理者より説明を行っている。家族の希望が強く、終末ケアに至った事もあった。	○	今後、終末ケアの可能性も含め、看取りについての話し合いが必要でもあるし、職員の人員配置の問題もあるので、家族の理解が必要。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居時には、終末期ケアについて、対応は難しいと説明はしているが、家族の要望が強い時は、併設の特養とも連携し支援している。なお、健康状態に変化がある時には、随時家族への連絡はしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退去の場合は、本人、家族と相談した上で在宅支援について検討をしている。他の施設等からの入居時には、担当者との情報提供など連携が取れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報についても、誓約書へ署名し保護を徹底している。利用者への言葉使いも尊厳をまもり、命令口調にならないよう努力はしているが、完全ではない。	○ 家族や、第三者からの反応などを考慮し、職員で徹底していくよう心がける。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者のペースで会話をしたり、同じ目線で話し、うなづきをしながら、受容している。意思疎通が困難な方には、ゆっくり丁寧に対応している。	○ 生活の中に、希望も取り入れていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	職員の決まりや都合で優先する事も、時々ある。その都度、利用者へ説明しているため、希望に沿って支援して行きたい。	○ 行事、会議、研修と時間がある時には、時間調整をやっている為なるべく、減らす工夫も、今後検討している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝、食事前にお化粧をし、身だしなみも、衣服管理が困難な方には、職員で調整を行っている。2ヶ月に、1度理容をされ、ホームに出向いてもらっている。	○ 職員と一緒に白髪染を買いに行き、ホームで職員から染めている。今後、行きつけの美容室へも家族と相談し検討する。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物も一緒に出かけ、畑の収穫した新鮮な野菜の下ごしらえなど、手伝いされている。	○ 利用者の役割分担しないと、出来る方が、全部される事になりがちで、トラブルに成りやすい。出来る可能性を引き出しながら職員で検討していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは、日替わりで出しているが、個人の好みには応じきれていない。	○ 家族からの差し入れや、おやつ時間に合わせ持ち込みもあり、手作りのおやつも少なくなっている為、具体化した献立も取り入れて行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し本人の訴えにもようどうを行っている。頻尿傾向にある方も、見守り一部介助にて、夜間対応している。	○	間に合わず、失禁される事もあり、家族にも相談し、必要などときには、紙パンツ使用も報告している。なるべく、トイレでできるよう支援を強化して行く。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	天然温泉もあり、利用者に大変喜んで頂いている。毎日入浴されたい方、体調を見ながら、入浴を支援している。利用者の希望時間も取り入れながら、対応している。	○	昼間の時間帯のみの入浴でありがちで、夜間入浴の実施も検討して行きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者が自由に居室、リクライニングの椅子、こたつでゆっくりとくつろいで過ごされている。夜間も喉の渇き、早朝の目覚めた方にも、お茶を提供し会話をしている。天候が良い時には、庭園で日光浴をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の役割分担にて、調理の手伝いや、畑仕事が好きな方、それぞれに興味のある方が積極的にされている。	○	まだまだ、出来る可能性があり、平滑の場を把握し負担に成らないよう支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る利用者が少なく、ほぼ、職員が事務所管理である。一緒に買い物に出るときには、ご本人へ支払いをして頂くようにしていきたい。	○	個人が少しでも金銭管理が出来るように、生活の中で把握していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に合わせて、お弁当を作り、ピクニックへ全員出かけている。外で食べるおにぎりも、利用者も格別に食欲も旺盛。全員参加する時は、併設の協力の上、リフト車を借り安心して出かける事ができている。	○	家族も、一緒になって参加できるように促して行きたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとり行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回の家族会の日帰り旅行はあるが、グループホームだけの旅行も機会があったら、家族との交流も深くなるように支援したい。	○	家族の状況を把握し、理解を深めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が自由に電話を掛けられるようになっているが、番号を思い出せない方が多く、家族からの電話が多い。書道、書き物が得意な方には、グループホーム理念も書いて頂いて、玄関、フロアに掲示している。	○	家族からの電話などは、心が落ち着かれ、安心されるが、お手紙など、季節に合った気持ちをかいて届けたいように努力して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の面会などは、個人の居室やフロアでの会話が多い。家族のお見送りには、車が出るまで、手を振られ涙ぐまれる姿があっている。	○	家族の布団も準備してあるが、宿泊までは至っておらず。家族の遠慮があるのかも知れない。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアに取り組んでいる為、職員も認識しているので行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設当時には、普通に生活ができて、施錠も取り組んでいなかったが、外出願望が強く、危険を要する方が、目だつて、鍵はつけている。	○	玄関に、センサーは設置しているが、玄関の出入り口も、急な坂道でもあり、危険度が高い。なるべく、鍵が掛けない環境へ変えていく必要がある。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜見守りしているが、職員の間をみて、外出されようと、落ち着きがない日々もある。時には、窓から出て行かれたりする事もある。	○	本人が外出したい願望が強いときには、一緒についで浴のような支援を多く見守りたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	アイスピックや小刀等を居室に持ち込まれている利用者には、管理が出来ない場合には家族に説明し、職員で保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時の対応の様式は、電話の近くに掲示してある。職員が落ち着いて対応する事ができるかまだ、充分ではない。	○	ヒヤリハット報告や、事故報告書について、再発防止に努めているが、職員の、対策方法など、勉強会をしていく事も課題である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命救急の技法の研修会が併設と一緒に参加出来ている。再度、勉強会を含め、緊急時のマニュアルも作成している。	○	全職員までは、実技法を学ぶ研修はなく、次回、研修の機会があれば参加させたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設との合同ではあるが、年2回の消防訓練を実施している。	○	地域との水害時にも訓練が出来ていない為、今後の検討である。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	体調の変化は、早めに家族へ報告している。苑外に出かける時にも危険はあるが、その対応には、職員も緊張感を持って接している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックを行い、体調管理は出来ている。体調の変化があったら、主治医、家族へ報告し必要時には病院受診や、往診をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の内服管理が困難である方が多く、職員が管理している。体調に変化がある場合には、主治医に相談、指示を頂いている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、食事献立には、気がけているが、排泄チェック表も参考に、定期的な声かけ誘導を行っている。	○	食事だけではなく、軽い運動など取り入れながら、便秘予防に努めたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の声かけ介助で、行っているが気分により拒否が見られることもある。	○	その方のタイミングを見ながら再度、声かけをし介助に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態に合った献立、高タンパク食など、取り入れている。栄養面での勉強会にも参加し、職員で意見交換も出ている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎年、インフルエンザ、疥癬、ノロウイルス、O-157などに関しては、資料を回覧している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の購入は、利用者と一緒に買い物に行っている。又、畑で収穫した野菜を使用し食卓へ提供ができています。夜間、漂白したり衛生面での管理は出来ている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先が、急な坂道になっているため、個人での散歩は危険がある。	○	テラスも段差がある為、スロープを設置し、自由に散歩出来るように配慮して行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の広さも充分あり、明るい空間作りを設けてある。家族からのお花や、観葉植物、花の苗を季節ごと頂く事が出来ている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個室、フロアのこたつにて気の合った入居者同士で、会話があり賑やかである。	○	時々、自分の配置場所が違った事でトラブルに成りかけたりする。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や畳が希望の時は、受け入れている。冷蔵庫の持込などあっている。	○	家族も安心して、宿泊されるように検討が必要である。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計を設け、冷暖房の調整には、気配りしている。清掃時空気の入替えなどこまめに出来ている。芳香剤は使用していない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<input type="radio"/> 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広いゆとりある空間で、車椅子での駆動も活動しやすい。又、職員と共に、散歩し庭園も段差があり、見守りが必要である。	<input type="radio"/> 個々の状態に合わせ、職員付き添いにて、散歩、庭園の手入れなど自立支援へ繋げて行きたい。
86	<input type="radio"/> わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者も一人ひとりが役割分担があるが、全員までは、至っていないまだ、充分ではない。	<input type="radio"/> 個別ケアの見直しを職員で検討する必要がある。
87	<input type="radio"/> 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良いときには、庭園にてレクリエーション、畑、花壇に花の苗を利用者と一緒に行っている。	

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームま心が開設し4年が過ぎました。天然温泉もあり、明るいスタッフとご利用者との共同生活も穏やかな環境と家庭的な雰囲気の中で、毎日過ごしています。ホーム内の菜園から収穫はもちろんの事、旬の野菜を豊富に召し上がる事が出来ている。ご利用者の中に、積極的にお手伝い等をされ、生き生きとされています。フロアも広く、秋には、ミニミニ運動会も出来、運営推進会議等で活用しています。競争心もわき、日頃物静かなご利用者も、この時ばかりはと・・・活気づかれ意欲が出ています。毎日、明るく笑いがあり、ご利用者の笑顔が、ホームを明るくさせて貰っています。スタッフも、勉強会や研修に積極的に参加し、少しでもケアの質を学ぶ為に、努力があります。これからも、ご利用者が、安心して生活が出来るよう、ご利用者の人格を尊重しやさしい言葉かけを重点に支援して行きたいと頑張っています。